

## 旭陵留学を経験した先輩方の近況報告をいたします!



来年度、中津高校創立120周年と同時にこの旭陵留学生プログラムも発足20年目を迎えます。この節目に際し、過去に旭陵留学を経験したOB,OGの方々がどんな形で社会参画されているか共有させていただきます。在校生の皆さんには留学経験の有無にかかわらず、「世の中にはどんな仕事があるのか知る」という進路選択の一助として読んでいただければと思います。それでは第2期生の西尾貴仁さんから紹介いたします。



### 第2期生 西尾貴仁さん(福岡中出身) 平成18年夏出発 派遣国:アメリカ合衆国

西尾貴仁さんは早稲田大学商学部を卒業後「マネックス証券」での勤務を経て、現在は米国系資産運用会社に勤めておられます。以下、西尾さんからの報告を掲載いたします。

\*\*\*\*\*

まずは、このような近況報告の機会を頂戴できたこと、誠にありがとうございます。プログラム開始から20周年を迎えるということで2期生の僕としては時が流れるのが非常に早く感じます。僕は2006年8月から2007年5月まで米国ケンタッキー州メイフィールド市の高校に派遣していただきました。中津高校よりも一回り小さな地元の高校に1年間通い、ホストファミリーや野球を通じて出会った仲間との思い出や経験は僕の人生でかけがえのないものとなり、今の自分があるのもこの留学経験なしに語ることはできません。改めてこの場をお借りして、僕の留学を支えてくださったOBOGの方々、先生方、仲間たち、そして家族には心より御礼申し上げます。

### Q: 旭陵留学が今の自分にどう生きていますか?

高校時代の留学経験は、大学でのさらなる挑戦の後押しにもなりました。高校時代に英語圏を経験していたことから、次はアジアにも目を向けたいと思い、上海と香港への留学へとつながりました。高校と大学という大きな環境の違いもあると思いますが、同年代のアジアの学生達が熱心に勉学に取り組む姿を見て、自分も頑張らねばと奮い立たされた記憶があります。留学を通じて築いた関係は非常に貴重で、地理的に近いこともあり、今でも交流が続く仲間もいます。



### Q: お仕事について教えてください。

大学卒業後は、証券会社に就職しました。学生の頃から投資・資産運用に関心があり、多くの方が投資に興味を持てる世界を実現したいという強い思いがありました。ここでも留学経験が存分に活かされたと感じています。入社後の配属先で担当になったのは米国株投資をお客様に広める営業・マーケティングでした。今でこそ新NISAが世の中でも盛り上がりを見せており、新NISAを通じた投資先として米国は高い人気を誇っているものの、私が新卒入社した頃は米国を資産を運用する先として考えていただける方々はまだまだ多くはありませんでした。そのような状況で、同僚と共に様々な営業・マーケティング施策を考えて、投資の輪を徐々に広げていくことに注力していました。

この仕事に没頭することができたのも、この留学経験の影響が大きかったのは間違いありません。日々の業務の中で実践的に英語を話す機会は少なかったものの、米国企業や米国市場に関してアレルギーを持つことなく、英語で情報収集ができたことは若い頃に米国での生活で、身の回りに米国企業を感じていたお陰だと思います。Apple や Google、Amazon、McDonald など代表される日本でビジネスを展開している企業は多くの方がご存知だと思いますが、そうではなくとも規模が大きな現地で有名な企業は米国には多くあります。小売、ファストフード、薬局、石油、レストランなど現地で生活をしていないと知ることが難しい米国企業に馴染みがあったことで、自分が話をする内容にも説得力が生まれました。

また、YouTube や Facebook など、当時米国で流行っていたサービスを目の当たりにしていたことで、特に米国のテクノロジー企業の強さを感じることができ、結果的に米国企業への投資に自信を持ってお客様へ勧めることができたのだと思います。入社後の配属というシステムがある中で、この仕事に就くことができたのも、高校時代の留学経験が導いてくれたものだと信じています。

証券会社で約 9 年間勤務した後、2022 年に現在の米国系の資産運用会社に転職しました。先に述べた通り、前の会社では仕事へのやりがいは十分にあったものの、よりグローバルな環境の中で、さらなる挑戦をしたいと思ったのがきっかけです。そしてやはり、貴重な機会を与えてくれたこのプログラムへの恩返しのためにも、留学経験を更に生かした仕事がしたいという強い思いもありました。



今の会社は米国の会社の日本拠点ですので、海外とのやりとりはすべて英語で行います。留学を経験したとはいえ英語を完璧に使いこなせるわけではないので、日常会話で感じる事のない難しさを感じます。相手に納得してもらえるよう論理立てて説明するなど、日本語と同じレベルで相手に伝えることは簡単ではありません。メールの後にあの書き方で本当に良かったのだろうか、会議の後もう少しこう話せばよかったな、などいつも反省ばかりです。もちろん、そこは一つの「技術」でもあるので鍛錬していくしかなく、英語やコミュニケーションの学びは仕事の外で日々続けています。ただし、言語は手段の一つでしかありません。英語が話せれば全てがうまく行くわけではなく、相手を思いやる気持ちを忘れず、自分が精一杯できることを示していくことで、相手との信頼を築くことも大切なことだと考えています。

そして、このような環境の中で働くことの醍醐味は、僕は何より達成感の大きさだと思っています。言語も文化も異なる人たちと一緒に協働してプロジェクトを終えた後のやりがいは、言葉に表せないほど心の底から嬉しい気持ちが湧いてくるものです。これは、僕が米国留学時に野球部の一員として団結し、最後のトーナメント戦で強豪チームに勝利した時のそれとよく似ています。大学時代に香港の学生と同じチームで議論を交わし、プレゼン大会で 1 位を取った時のそれとも同じです。学生(勉強)と社会人(仕事)という違いはあれど、高校・大学の留学時の経験をあたかも追体験しているようなこの感覚は、苦しい時に頑張れるモチベーションにもなっています。目の前の仕事は簡単なものではありませんが、同僚や仲間と共に喜び合えることこそが、僕にとってやりがいでもあり生き甲斐でもあることを、これまでの経験を通じて知ることができました。

僕にとって、英語を学んで良かったと思えることは上に書いたような留学や仕事でのプライスレスな経験です。今はテクノロジーが発達し、英語の重要性はこれまでより下がっていくのかもしれませんが、しかし、実際に自分で英語を使うことで得られる経験は、何にも代え難い人生経験になると僕は信じています。学生の皆さんは英語は高校時代は受験科目でもあるので、「楽しむ」ことは難しいかもしれませんが、それでも高校英語の基礎があれば、いくらかでも力を伸ばしていくことはできると思います。もし、高校では英語学習が不完全燃焼だったとしても、これから英語の力を伸ばしたいという方は、ぜひ卒業後も諦めずに頑張ってくださいと思います。

**Q: 最後に一言お願いします。**

ある程度の年齢を重ね、自分より若い世代にいつか何か残したいという思いが強くなっています。旭陵留学プログラムへの参加が私の人生のターニングポイントになったことは間違いありません。留学することがすべてだとは思いませんが、今いる世界の外側に少しでも興味を持つ学生がいるのであれば、僕は心から応援したいと思っています。

旭陵留学プログラムが素晴らしいのは、短期的な目線ではなく、継続的に留学生を送り出すために太陽光発電を活用していることだと思います。僕は太陽光発電の他にも、このような仕組みは様々な形で実現できると考えており、僕がこれまで過ごしてきた金融業界での経験と知見を活かせるのではと考えています。いつか留学を希望する学生を金銭的に支援する基金を自身で設立し、更なる留学の機会を提供したいと思っています。その時のために、自分自身が成長して胸を張って夢を応援できるよう、日々邁進していきます。



**次回予告**

次回の旭陵留学ジャーナルは引き続き OG・OB の方々の近況報告を紹介いたします。お楽しみに♪